

JMIAのご案内



日本自動車レース工業会

www.jmia.jp

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION

日本自動車レース工業会

東京連絡事務所 〒107-0062 東京都港区南青山4丁目2番1号コンフォリア南青山DEUX 401 Tel.03-6906-5753 Fax.03-6906-5754
本部 〒521-0023 滋賀県米原市三吉215-1 株式会社 童夢内 Tel.0749-54-1526 Fax.0749-54-1527 E-mail post@jmia.jp

資源も無い小さな島国が、こうして経済大国と言われるようになったのは、日本の技術と工業力によるところが大きいと思うのですが、こと自動車レースの世界では少し事情が異なり、事実上の日本の自動車レースの夜明けである1963年の第一回日本グランプリ以来40余年、日本の自動車レースは、ドライバーの戦い/育成を中心として展開されてきました。「いつか、天才的なF1ドライバーが出現すれば日本の自動車レースが変わる」という悲願のもとに、いろいろな仕掛けが考えられ数多くの若者たちが育てられてきましたが、一方、なぜか、自動車レースの本質的な要素である技術の戦いは軽視され、そのほとんどが海外の既存技術に丸投げされることが常態化していました。しかし残念ながら、40余年待ち続けてもセナもシューマッハも出現せず、未だ、レース結果は五大新聞にもほとんど掲載されず、テレビの中継も無く、街中でドライバーがサイン攻めに会うこともないマイナーな状況が続いています。

日本の自動車レースは、レース内容、予算規模、レース数、サーキットの数など、あらゆる面で他国と比較しても勝るとも劣らない環境を持っていますから、本来は、もっとメジャーなイベントになってしかるべきですが、こうして長らく続けてきて、いつまで経ってもマイナーなままであることには明確な理由があります。

何が間違っていたのかと言うと、日本では、自動車レースはドライバーのテクニックを競うものと解釈されていますが、本当の自動車レースは自動車開発技術の戦いであり、ファンはその技術の結晶であるレーシング・マシンにより多くの魅力を感じるものだからです。F1とルマンが自動車レースの頂点であることに異論は無いと思いますが、これらのレースは開発技術の戦いです。日本のレースでも、ドライバーの腕比べのフォーミュラ・ニッポンは閑古鳥が鳴いていますが、自動車が主役のGTレースは盛況です。

このように、少し周りを見渡せば状況は理解できると思いますが、何故か日本では、まだまだドライバーの戦い/育成を中心とした展開を続けていこうとしています。

しかし日本にも、F1ドライバーを夢見る少年がたくさん居るように、技術者を夢見る若者もたくさん居ますし、このような環境下においても、大好きなレーシングカーやレーシングエンジンの開発に没頭してきた企業もたくさん存在します。



日本の技術力、工業力が自動車レースを変えます。



なかなか表だって活躍するチャンスが巡ってきませんでした。長きに亘り、日本の技術力工業力をベースに技を磨き力を蓄えてきた日本の自動車レース産業の実力は、規模においては比喩物になりませんが、技術力においては、自動車レース大国である英国にも勝るとも劣らないレベルにあると考えています。

現状をよく観察するに、どう考えても、マイナーとかメジャーとかいう以前に、基本的な、やっていることが「違う」という違和感が強くなるばかりですが、このまま何も変えなければ、当然、いつまでもこのままです。かねがね、この不毛な状況を変えてきた、私たち、自動車レースを開発技術の戦いであると理解する、「日本コンストラクター・ユニオン」と「日本レーシングエンジン・ユニオン」は、このたび一致協力し、この二つのユニオンに参画する約60社を母体として、その他、志を同じくする自動車レース関連企業を加えて、「日本自動車レース工業会(JMIA)」を設立する運びとなりました。

日本自動車レース工業会は、「自動車レースは自動車開発技術の戦いである」ことを理念とし、日本の自動車レースに技術の戦いを取り戻すことに努め、レース界に生産性と工業力による経済効果を喚起し、それにより、日本の自動車レースを発展振興させることを目的とします。最終的には、現在、約1200億円とも言われている海外に流出しているレース関連の購買を国内需要に振り向けるだけでなく、輸出を拡大して、貿易収支を改善するところまでを目標としています。

日本のレース界が本当の自動車レースに目覚めれば、日本の自動車レースは根本から変わっていきます。もともと、このような科学的技術的なゲームは日本人が最も得意とする分野ですから、日本人の英知と工業力は、瞬く間に世界のレース界を席巻するレベルに到達するでしょう。そうして豊かになったレース界になくはならない存在がドライバーであり、ドライバーはそうして育つのが正しいのです。

レース界の皆様が何かを発注するときに、ちょっとこのパンフレットの存在を思い出し、該当する企業がJMIAの事務局にお問い合わせいただくことから、日本の自動車レースの改革が始まります。

日本自動車レース工業会

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION

以前から、わが国にも、「日本コンストラクター・ユニオン」と「日本レーシングエンジン・ユニオン」があり、それぞれ活動を続けてきましたが、その活動内容は、業界内の種々の調整などがメインであり、業界や自動車レースの発展振興にまでは及んでいませんでした。しかし、両者とも、ドライバーの腕比べや育成だけに終始する日本の自動車レースの現状と将来に強い危機感を抱いていましたので、共に技術の世界に生きるものとして、協力して現状を打破しなくてはならないと決意し、両ユニオンの上部組織として、日本自動車レース工業会を設立することになりました。今後は、日本の自動車レース産業の総力を結集して、開発技術の戦いである本当の自動車レースを取り戻し、それにより、日本の自動車レースの発展振興を図るとともに、根底からの改革を目指したいと考えています。

営利団体ではありませんから組織の形態はNPO法人とし、公明正大な運営を維持するために理事会を中心とした合議制を旨とするとともに、会長の任期も2年2期を最大として制限しています。

名称	日本自動車レース工業会	JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION (JMIA)
設立	2008年3月	6月にNPO法人としての認可が得られる予定
所在地	東京連絡事務所	〒107-0062 東京都港区南青山4丁目2番1号 コンフォリア南青山 DEUX 401 Tel. 03-6906-5753 Fax. 03-6906-5754 E-mail post@jmia.jp
	本部	〒521-0023 滋賀県米原市三吉215-1 株式会社 童夢内 Tel. 0749-54-1526 Fax. 0749-54-1527 E-mail post@jmia.jp
ホームページアドレス	www.jmia.jp	
メンバー構成	名誉会長1名、会長1名、副会長1名、理事5名、事務局長1名、監査役1名、広報担当1名、会員企業6月末を第一期の締切日として現在募集中。当面100社を目標としています。	

組織図

 <p>副会長 Vice-President 大岩 淳英 (きよし) Kiyoshi Oiwa 1939生 元TOMS社長 TOMSの創立メンバー。 TOMSは幅広くレース活動を展開しているが、大岩氏は、特にレーシング・エンジンに関しては第一人者。</p>					 <p>会長 President 林 みのる Minoru Hayashi 1945生 株式会社 19歳の時に最初のレーシングカーを造って以来、現在まで造り続けている。今まで15回オリジナルマシンでルマンに挑戦を続けており、ルマンでの優勝が夢。</p>					 <p>名誉会長 Honorary President 平井 たくや Takuya Hirai 1958生 国土交通副大臣 電通を経て西日本放送社長に就任。2000年に衆議院に当選。現在、国土交通大臣を務める。自民党モータースポーツ推進に所属するレース好き。</p>									
<p>理事 Director</p>					<p>事務局長 Secretary-General</p>					<p>広報担当 Public Relations</p>					<p>監査役 Auditor</p>				
 <p>ムーンクラフト(株) 代表 由良 拓也 Mooncraft Co., Ltd. President Takuya Yara</p>	 <p>WEST RACING CARS(株) 代表 神谷 誠二郎 West Racing Cars Co., Ltd. President Seijiro Kamitani</p>	 <p>Ken Mitsuura Racing Service 代表 松浦 賢 Ken Mitsuura President Ken Mitsuura</p>	 <p>Todo Racing Co., Ltd. 代表 戸田 幸男 Todo Racing Co., Ltd. President Yukio Toda</p>	 <p>東京アールアンドエー 代表 間宮 篤 Tokyo R&D Co., Ltd. Managing Director Atsushi Maniwa</p>	 <p>日本自動車レース工業会 事務局長 津山 賢 JMIA Secretary-General Saburo Tsuyama</p>	 <p>Sports Car Racing 研 ディレクター 鈴木 英紀 Sports Car Racing Group Director Hidemori Suzuki</p>	 <p>トネルパワー 代表取締役 鈴木 修二 Tonel Powered, Inc. Chairman Shuji Suzuki</p>												

日本自動車レース工業会の活動内容

- 日本の自動車レース産業の発展振興を目指します。
日本の高度な技術力工業力を最大限活用し、自動車レース産業の発展振興を促しながら、従前とは異なるアプローチからの日本の自動車レースの改革を目指します。
- 日本の自動車レースのレベルアップに努力します。(技術委員会の設置)
自動車開発技術をなおざりにして、ドライバーの育成だけに没頭する日本の自動車レースには、技術的見識不足によるおかしな出来事や決まりが多く存在しますが、JMIAでは、専門家による技術委員会を設置し、これらの過ちを正していく努力を続けるとともに、早期に、JMIAの技術委員会がレギュレーションを制定するような構造に変えていきたいと考えています。
- 自動車レースにおけるエンジニアリング・スタンダードを制定します。
現在のレギュレーションでは、主として、材質や寸法規定が主となり、開発製造段階での細目までは言及していませんが、今後、新たなコンストラクターやエンジンメーカーが出現したり、未経験のカテゴリーに進出する際に、JMIAなりの設計の基準となる規格を設けておきたいと考えています。
- JMIAの理念に合致する自動車レースの主催や運営に取り組みます。
技術開発競争を戦いの本質とする本当の自動車レースを増やさなくてはなりません。大小を問わず、そのような、本当の自動車レースの開催に努力協力していきます。とりあえずは、スポーツカー・レースやF660レースの国内開催に向けて努力していくつもりです。
- 将来において、輸出貢献業界として、公的支援を受けられるような目標を持ち、準備を進めます。
英国モータースポーツ工業会は、年間、7500億円以上の売り上げを標榜し、政府より、年間40億円の補助金を得ています。日本の自動車レース産業界も、一刻も早く、貿易収支に貢献するような業界になりたいと考えています。
- 自動車レースのジャーナリズムの健全化を支援します。
従前の日本の自動車レース・ジャーナリズムは、完全にジャーナリズムの使命を放棄し、あらゆる出来事に対しても、賛美と期待とエールを送ることしかせず、一見、何の間違ひも失敗も無い世界を演出してきました。また、技術に関しても無知蒙昧で、問題の抽出さえできませんから、JMIAで、特に注目すべき点に関しては注意を喚起していきたいと考えています。また、年間の専門誌の記事から、最高と最低の記事を選出し、それぞれを表彰したいと考えています。
- 積極的な広報活動を行います。(ホームページ/雑誌等)
多くの自動車レースファンに、本当の自動車レースを知ってもらうために、ホームページや専門雑誌での広報活動を活発に行います。専門誌に関しては、当面は会報の形で小冊子を刊行しますが、将来的には、技術面から自動車レースを捉えた新しいスタイルの雑誌を出版したいと考えています。
- 開発ソフトの提供/支援
経験豊富なコンストラクターのCADの中には、過去の貴重なデータが凝縮されて詰まっています。今後の課題としてですが、将来を嘱望される会員企業には、開発力の向上を支援するという意味で、データの公開を実施していきたいと考えています。
- 標準部品の生産供給
現状、ペダルやシフトレバーなどの汎用性の高いパーツも、ほとんどの場合、車種ごとに専用品を設計制作していますが、車両開発の利便性の向上を目指し、これらの標準部品の生産供給を行っていきたくと考えています。
- レーシングカー・ショーへの出展
国内で開催されているモータースポーツ・イベントなどとの併催というような形で、レーシングカー・ショーの開催を実現したいと考えています。また、今後の課題として、毎年、バーミンガムで開催される、「オートスポーツ・インターナショナル・エキジビジョン」へのJMIAとしての出展を検討します。
- 汎用モノコック/エンジンの市販
安全面からも必要不可欠となりつつあるCFRPモノコックですが、高価なため、なかなかアマチュア用のレーシングカーなどには採用が困難でしたが、JMIAが汎用の廉価なモノコックを製造して供給する予定です。また、手頃なレーシング・エンジンも不足していますから、安価な汎用エンジンの開発製造も計画しています。
- F660(仮称)の企画
安全なモノコックが確保できれば、ドライバーだけではなく、コンストラクターの卵の登竜門として、その昔、一世を風靡したFJ360の世界を再現したいと考えています。
- Best Racingcar of the Year (JMIAアワードの表彰)
毎年、その年に開発された最も優秀なレーシングカーと開発担当者を選考し表彰したいと考えています。レーシングカー・ショーの時に発表し、高額の賞金を出せば励みにもなりますが、今後の課題です。

日本自動車レース 工業会ができること

レーシングカーの開発 / 製造

現在のレーシングカーの開発には、CADなどの設計設備や風洞実験設備、カーボン・コンポジット製品の開発製造設備などと、それらを運用する高度な技術力が必要です。

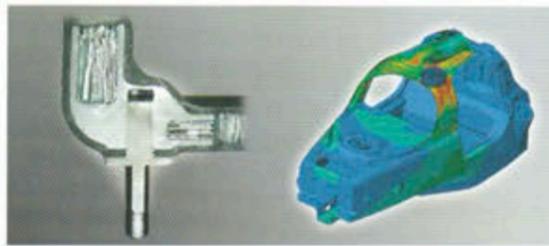
また、それらの技術力は、レースの現場からのフィードバックによって経験的に構築されるものがほとんどで、すべての技術領域において、設備を整えただけで、次の日から十分に稼働するということはありません。つまり、充実した設備に有能な技術者に加えて、豊富な経験が必要不可欠です。

レーシングカーの開発は、空力開発から始まります。空力開発には風洞実験設備が必要ですが、風洞だけあっても開発はできません。風洞は、体重計のように出た数字をそのまま鵜呑みに出来るような計測機ではなく、長年に亘る風洞実験と実走行の相関関係の把握によって培われた感性が決め手です。



経験豊富なコンストラクターのCADの中には過去の豊富なデータが詰まっています。ドライビングポジションやモノコックのレイアウトは過去のデータから容易に構築できます。また、FEMによる強度計算もCADの仕事ですが、これにも豊富な経験が必要です。

現在のレーシングカー開発において、空力開発とともに重要なのが、カーボン・コンポジット部品の設計と製造です。特に軽さと強さを両立させる設計技術は重要です。また、完成後は検査のしようがない構造のモノコックなどの製造には、信頼関係が欠かせません。



完成したレーシングカーの性能を最大限に引き出すのもコンストラクターの仕事です。エンジニアやメカニックやドライバーなどで構成された開発チームが改良やセットアップを行い、勝てるマシンに仕上げていきます。

レーシングエンジンの開発 / 製造

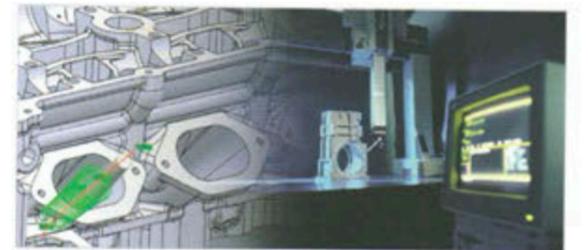
事実上の日本の自動車レースの夜明けである、1963年の第一回日本グランプリの時代から日本のエンジン・チューナーの活躍が始まり、国産各社が参加するツーリングカー・レースのパワー競争を支えてきました。このように、エンジン・チューナーの歴史は古く、以後、連綿と成長拡大を続け、現在は、オリジナルエンジンの開発も可能な高度な技術を持つ企業も少なくありません。日本の自動車レース産業界にも、世界水準のエンジン開発能力が潜在していることを発見してください。

現在のレーシングエンジンの開発には、豊富な経験はもちろん、CAD・CAM・CAE等の設計・製造・解析設備や製造に伴う工作機械が必要不可欠となっています。性能を左右するポートの開発にはフローベンチやCFDによる開発が必須であり、ベンチテストや実走行結果を分析・評価する経験と感性も重要です。



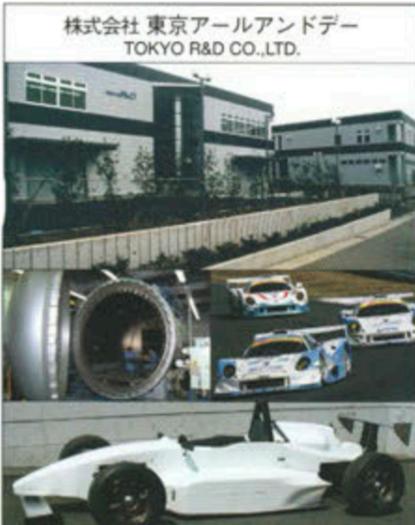
エンジン・コンストラクターのCADの中には豊富な経験と長年のデータが凝縮されています。動弁系等の機構解析はCADによるキネマティクス・シミュレーターを用い、設計段階からアナリシスによる強度計算などを行います。ここでも一番大切なことは、レーシング・エンジンを創り続けた長年の経験と感性です。

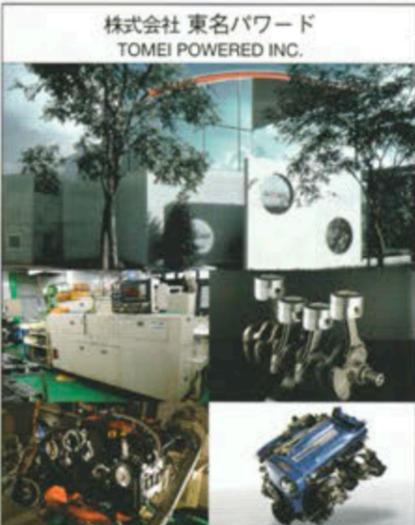
近年のレーシング・エンジンは車体とのマッチングが重要な課題となります。出力性能だけでなく低重心・軽量化・コンパクト・高剛性、耐久性、低燃費などを必要とされますから、総合的なバランス感覚が必要です。又、完成検査には3次元測定器などによる精密検査を行い安定した品質の確保を行っています。



エンジン開発における最終段階はベンチテストでのチューニングですが、この後の実戦投入後も開発は続きます。特にエンジンに火が入ってからの開発は、積み重ねられたベンチデータやレース現場での豊富な経験なくしては成立しません。

日本自動車レース工業会 理事会員企業のご紹介

	株式会社 東京アールアンドデー TOKYO R&D CO.,LTD.		〒245-0035 神奈川県厚木市愛甲1516		
	TEL.	046-227-1101	FAX.	046-227-1105	
URL		www.r-d.co.jp		E-mail info@r-d.co.jp	
支店/関連会社		株式会社ビューズ VEAMAC CAR COMPANY LTD.			
主たる業務内容：自動車、電気製品等にかかる完成品、部品装置、ソフトウェアの研究開発、製造、販売					
主たる設備など：CATIA-V4/V5, ALIAS, ICEM SURF, ATOS III, NASTRAN, オートクレーブ6基(最大3500x4500)、25%スケール風洞ほか					
1981年に創立された自動車の研究開発を専門に行う会社です。2輪/4輪の量産車、研究車、競技車、ショーモデルの受託開発。電気自動車、ハイブリッド自動車とその要素部品であるモーター、インバーターなどの開発。炭素繊維複合材料を使った軽量高剛性部品の開発と製造。原動機、パワートレインの評価、開発、組込みソフトの開発。レーシングカー開発、製造販売など幅広い業務を手がけています。自社技術を反映したスポーツカー Vemac RD200の製造販売、Vemac RD408Rによるレース参戦も行っています。					

	株式会社 東名パワード TOMEI POWERED INC.		〒194-0004 東京都町田市鶴間1737-3		
	TEL.	042-795-8411	FAX.	042-799-7851	
URL		www.tomei-p.co.jp		E-mail jmia@tomei-p.co.jp	
支店/関連会社		TOMEI POWERED USA INC.			
主たる業務内容：自動車部品の企画・開発・製造・販売、レーシングエンジンの製造・販売					
主たる設備など：フチノ水動力計、東京プラント水動力計、豊田工機カムシャフト研削盤2基、BOSCHシャーシダイナモメーターほか					
1968年の創業から、私達の歴史はエンジンチューニングの歴史とシンクロしています。日本のレーシングエンジンの創生期から今日まで、一貫してエンジンに携わってきたエンジンパーツ専門メーカーです。その歴史の過程の中で様々なレーシングエンジンやアフターマーケット用のチューニングエンジンを世に送り出し、柔軟かつ幅広い技術力と経験を培ってきました。近年では量産車に搭載されるエンジンをベースとしたコンプリートエンジンシリーズを展開しており、全世界のユーザーに向け、独自の提案をし続けています。					

この日本自動車レース工業会のパンフレットは発表会用の暫定版ですが、第一期の入会締切日である6月を目途に初版を刊行し、その後は、新入会員を会報で紹介して行くとともに、年一回を目途に改訂版を発行したいと考えています。

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION

Motor races in Japan have long been organized as events where drivers try to outperform each other in driving technique. One-make races have thus been emphasized because they are regarded as the best way to precisely compare drivers' skills. Popular foreign cars are commonly imported as racing cars. Motor races in Japan have not been associated with technological development for a number of years, and consequently the Japanese motor-racing industry has lost its standing. As you are well aware, when a Japanese team participates in an F1 or Le Mans race, most of their technological elements are produced using existing foreign technologies.

However, many Japanese technicians are interested in building racing cars and engines. We are traditionally good at competing in technologies and engineering. If only a small opportunity is provided, Japan will rapidly acquire technological and engineering expertise.

The Japan Motor-racing Industry Association (JMIA) plans to promote the development and growth of motor racing in Japan by restoring the competitiveness of Japanese motor-racing technologies, aiming at eventually becoming predominant in the world's motor-racing industry.

Though the size of the industry is different, we are proud that our technological expertise is comparable to that of the United Kingdom. We are also certain that our products are far more reasonably priced. We would appreciate it if you could make contact with the JMIA when you plan to purchase racing-car products.

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION (JMIA)

The Japan Motor-racing Industry Association has been established as a result of the merger of the Nippon Constructor's Union, established in 1975, and the Racing Engine Union, Japan, established in 1982. In addition to the approximately 60 companies of the former two unions, we are promoting the participation of additional supporting companies. The Association is expected to grow further in the future.

HONORARY PRESIDENT



Takuya Hirai
(1959 - Vice Minister, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism)
After leaving Dentsu Inc., Takuya Hirai assumed the post of President of Nishinippon Broadcasting Co., Ltd. In 2000, he was elected as a member of the House of Representatives. At present, he works as the Vice Minister at the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Mr. Hirai likes motor racing and participates in the Federation of Diet Members for Motor Sports of the Liberal Democratic Party.

PRESIDENT



Minoru Hayashi
(1945 - President, Dome Co., Ltd.)
Since he built his first racing car at the age of 19, Minoru Hayashi has continued to build racing cars. He has participated in 15 Le Mans races using his original cars. His target today is to win the Le Mans.

VICE-PRESIDENT



Kiyoshi Oiwa
(1939 - President, Tom's Co., Ltd.)
Kiyoshi Oiwa is one of the founders of Tom's, a company actively involved in motor racing. Kiyoshi Oiwa is a leading designer of racing engines.

ACCESS

JMIA HEAD OFFICE

215-1, Miyoshi, Maibara, Shiga,
521-0023, Japan (DOME CO., LTD.)
TEL. 0749-54-1526 FAX. 0749-54-1527 E-mail post@jmia.jp

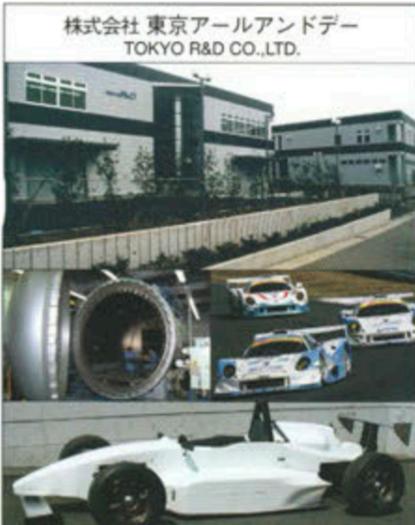


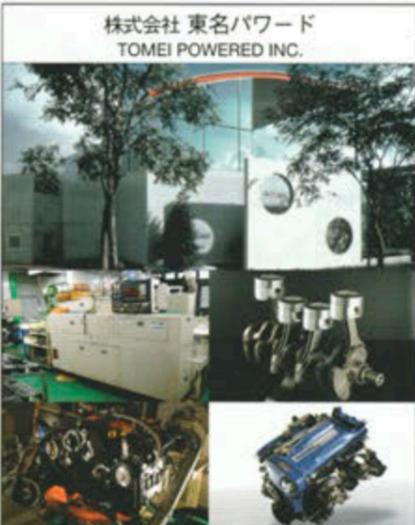
JMIA TOKYO BRANCH

Comforia Minami-Aoyama Deux 401, 4-2-1
Minami Aoyama, Minato-ku, Tokyo, 107-0062, Japan
TEL. 03-6906-5753 FAX. 03-6906-5754 E-mail post@jmia.jp



日本自動車レース工業会 理事会員企業のご紹介

	株式会社 東京アールアンドデー TOKYO R&D CO.,LTD.		〒245-0035 神奈川県厚木市愛甲1516		
	TEL.	046-227-1101	FAX.	046-227-1105	
URL	www.r-d.co.jp	E-mail	info@r-d.co.jp		
支店/関連会社	株式会社ビューズ VEAMAC CAR COMPANY LTD.				
主たる業務内容：自動車、電気製品等にかかる完成品、部品装置、ソフトウェアの研究開発、製造、販売					
主たる設備など：CATIA-V4/V5, ALIAS, ICEM SURF, ATOS III, NASTRAN, オートクレーブ6基(最大3500x4500)、25%スケール風洞ほか					
1981年に創立された自動車の研究開発を専門に行う会社です。2輪/4輪の量産車、研究車、競技車、ショーモデルの受託開発。電気自動車、ハイブリッド自動車とその要素部品であるモーター、インバーターなどの開発。炭素繊維複合材料を使った軽量高剛性部品の開発と製造。原動機、パワートレインの評価、開発、組込みソフトの開発。レーシングカー開発、製造販売など幅広い業務を手がけています。自社技術を反映したスポーツカー Vemac RD200の製造販売、Vemac RD408Rによるレース参戦も行っています。					

	株式会社 東名パワード TOMEI POWERED INC.		〒194-0004 東京都町田市鶴間1737-3		
	TEL.	042-795-8411	FAX.	042-799-7851	
URL	www.tomei-p.co.jp	E-mail	jmia@tomei-p.co.jp		
支店/関連会社	TOMEI POWERED USA INC.				
主たる業務内容：自動車部品の企画・開発・製造・販売、レーシングエンジンの製造・販売					
主たる設備など：フチノ水動力計、東京プラント水動力計、豊田工機カムシャフト研削盤2基、BOSCHシャーシダイナモメーターほか					
1968年の創業から、私達の歴史はエンジンチューニングの歴史とシンクロしています。日本のレーシングエンジンの創生期から今日まで、一貫してエンジンに携わってきたエンジンパーツ専門メーカーです。その歴史の過程の中で様々なレーシングエンジンやアフターマーケット用のチューニングエンジンを世に送り出し、柔軟かつ幅広い技術力と経験を培ってきました。近年では量産車に搭載されるエンジンをベースとしたコンプリートエンジンシリーズを展開しており、全世界のユーザーに向け、独自の提案をし続けています。					

この日本自動車レース工業会のパンフレットは発表会用の暫定版ですが、第一期の入会締切日である6月を目途に初版を刊行し、その後は、新入会員を会報で紹介して行くとともに、年一回を目途に改訂版を発行したいと考えています。

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION

Motor races in Japan have long been organized as events where drivers try to outperform each other in driving technique. One-make races have thus been emphasized because they are regarded as the best way to precisely compare drivers' skills. Popular foreign cars are commonly imported as racing cars. Motor races in Japan have not been associated with technological development for a number of years, and consequently the Japanese motor-racing industry has lost its standing. As you are well aware, when a Japanese team participates in an F1 or Le Mans race, most of their technological elements are produced using existing foreign technologies.

However, many Japanese technicians are interested in building racing cars and engines. We are traditionally good at competing in technologies and engineering. If only a small opportunity is provided, Japan will rapidly acquire technological and engineering expertise.

The Japan Motor-racing Industry Association (JMIA) plans to promote the development and growth of motor racing in Japan by restoring the competitiveness of Japanese motor-racing technologies, aiming at eventually becoming predominant in the world's motor-racing industry.

Though the size of the industry is different, we are proud that our technological expertise is comparable to that of the United Kingdom. We are also certain that our products are far more reasonably priced. We would appreciate it if you could make contact with the JMIA when you plan to purchase racing-car products.

JAPAN MOTOR-RACING INDUSTRY ASSOCIATION (JMIA)

The Japan Motor-racing Industry Association has been established as a result of the merger of the Nippon Constructor's Union, established in 1975, and the Racing Engine Union, Japan, established in 1982. In addition to the approximately 60 companies of the former two unions, we are promoting the participation of additional supporting companies. The Association is expected to grow further in the future.

HONORARY PRESIDENT



Takuya Hirai
(1959 - Vice Minister, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism)
After leaving Dentsu Inc., Takuya Hirai assumed the post of President of Nishinippon Broadcasting Co., Ltd. In 2000, he was elected as a member of the House of Representatives. At present, he works as the Vice Minister at the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Mr. Hirai likes motor racing and participates in the Federation of Diet Members for Motor Sports of the Liberal Democratic Party.

PRESIDENT



Minoru Hayashi
(1945 - President, Dome Co., Ltd.)
Since he built his first racing car at the age of 19, Minoru Hayashi has continued to build racing cars. He has participated in 15 Le Mans races using his original cars. His target today is to win the Le Mans.

VICE-PRESIDENT



Kiyoshi Oiwa
(1939 - President, Tom's Co., Ltd.)
Kiyoshi Oiwa is one of the founders of Tom's, a company actively involved in motor racing. Kiyoshi Oiwa is a leading designer of racing engines.

ACCESS

JMIA HEAD OFFICE

215-1, Miyoshi, Maibara, Shiga,
521-0023, Japan (DOME CO., LTD.)
TEL. 0749-54-1526 FAX. 0749-54-1527 E-mail post@jmia.jp



JMIA TOKYO BRANCH

Comforia Minami-Aoyama Deux 401, 4-2-1
Minami Aoyama, Minato-ku, Tokyo, 107-0062, Japan
TEL. 03-6906-5753 FAX. 03-6906-5754 E-mail post@jmia.jp

